



資源保護、環境保全や安全、人権などに配慮した原材料を調達するとともに、トレーサビリティの確保に努め、サプライヤーとの対話を通じ、よりサステナブルな原材料調達をめざします。

## 社会的課題と花王が提供する価値

### 認識している社会的課題

製品の原材料調達において、乱開発による原産地の環境破壊、生物多様性の損失が大きな課題になっています。

また、原材料やサービス等を提供するサプライチェーンにおける労働者の人権の保護、安全・衛生管理、原産地の地域住民の強制移住、健康被害なども喫緊の課題になっています。

### 花王が提供する価値

花王の事業は自然資本に大きく依存しており、ESG経営を進める上では、省資源、地球温暖化、生物多様性保全などの環境側面や、人権などの社会的側面に十分配慮した調達を行なうことが求められます。同時に、市場の変化、需給の変化に柔軟に対応するために、デジタル技術を活用し、従来の枠組みを超えたオペレーションの革新を行なう必要があります。花王の調達部門は、それら2つを基軸とし、「ESG視点のよきモノづくり(ESGよきモノづくり)」を推進します。

### 「2030年のありたい姿」の実現に関わるリスク

調達におけるリスクには、原材料等の安定調達に関する供給リスクと社会課題に対して適切な対応を怠った場合に顕在化する可能性がある評判リスクがあります。

供給リスクに対してはBCPの策定等で対応していますが、近年評判リスク(社会面、環境面)への対応がより重要になっています。

### 「2030年のありたい姿」の実現に関わる機会

上記リスクに対して適切に対応していくために、社会面では花王人権方針に基づく人権デュー・ディリジェンスの実施、「調達先ガイドライン」に基づくサプライヤーのリスクアセスメント、環境面では「原材料調達ガイドライン」に基づいたパーム油、紙・パルプの調達を推進しています。それにより、消費者の共感を喚起し、サプライヤーと良好な関係が保たれ安定供給が図れるため、ひいては企業の成長と企業価値向上につながると考えています。

### 貢献するSDGs





## 方針

花王は「調達基本方針」に則った調達活動を具体的なものとするため、「調達先ガイドライン」および「原材料調達ガイドライン」を制定しています。

花王はサプライヤーを“よきモノづくり”に不可欠なパートナーと考え、「調達先ガイドライン」に基づき、調達活動に取り組んでいます。また、法令や社会規範の遵守、人権の擁護、安全衛生の確保、公正な取引等、社会的責任に配慮されているサプライヤーや、環境マネジメントシステムをはじめ、花王が配慮すべき環境項目にご協力いただけるサプライヤーからの調達を優先しています。さらに、環境に配慮した原材料や包装容器の調達を優先しています。

花王とサプライヤーとの間で締結する取引基本契約書においては、上記の環境・人権・労働等に関する条文を明記しています。

また、地球温暖化、生物多様性の劣化などの環境問題、資源制約や人権などの課題を踏まえ、「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な調達に取り組んでいます。

花王の事業は自然資本に依存しており、天然資源に依存するサプライチェーンは自然資本に損害を与えるリスクがあると認識しています。パーム油や紙等の調達に関しては原産地での森林破壊ゼロを支持しています。中長期的には、原材料の徹底的な使用量削減や、藻類のような非可食バイオマス由来の原材料等への転換に取り組むとともに、グローバル化により顕在化してきた倫理的な課

題にも配慮して、持続可能で責任ある調達を推進します。



→

詳細は「調達先ガイドライン」  
[www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/procurement-supplier-guidelines.pdf](http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/procurement-supplier-guidelines.pdf)

→ 詳細は「原材料調達ガイドライン」

[www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/procurement-raw-materials-guidelines.pdf](http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/procurement-raw-materials-guidelines.pdf)

## 教育と浸透

責任ある調達を実行するためには、購買部門の社員一人ひとりが必要な知識を習得し、「調達基本方針」や各種ガイドラインを理解して行動に移していくことが必要です。このため、さまざまな研修や啓発活動を行なうほか、グローバル調達会議を年1回実施しています。

## ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

花王は、国内外のサプライヤーとベンダーサミット、品質向上会議等を通じて意見交換を行なっています。サプライヤーのモニタリングにSedexを活用し、Sedexへの加盟、回答等を求めてることでサプライチェーン全体でのリスクアセスメントを図っています。また、CDPサプライチェーンプログラム等さまざまな

取り組みを通じて、サプライヤーとの連携を強化し、グローバルな調達の推進に取り組んでいます。

さらに、NGOとの対話も継続して実施しており、経済人円卓会議日本委員会が主催するプログラム等を通じて、現地のNGOと集会を行ない、小規模パーム農園を訪問しています。

持続可能な調達やトレーサビリティの確立などをめざすSUSTAIN、JaSPONなどの団体にも参画し、他社・他団体とも活発に意見を交わしています。

## 体制

購買部門では、企画部サステナビリティグループとともに、購買部門サステナビリティ戦略部会(年5回開催)を設け、持続可能で責任ある調達を実行するための戦略を策定しています。

その戦略のもと、原料部および包材部は「原材料調達ガイドライン」に則った調達を進め、間接材部は文具・事務用品などのグリーン購入、機器部は環境に対応した設備・機器の導入を推進しています。

購買部門の戦略および活動は経営会議への報告を通して、取締役会へ報告しています。

また、年1回グローバル購買会議を開催しています。

なお、2020年1月に組織体制を変更しました。ESGと安定調達を基軸に置き、持続的な競争力優位性を構築するための“戦略的コーディネーター”となることを部門方針として調達活動を推進します。



## 中長期目標と実績

### 2020年中期目標

#### 1. 持続可能な原材料の調達

花王は森林破壊ゼロに向けた取り組みとして、パーム油、紙・パルプについて2020年までの持続可能な原材料の調達への切り替えをめざしています。

パーム油・パーム核油の調達においては、RSPO<sup>\*1</sup>に加盟して関連工場のSCCS<sup>\*2</sup>認証取得と認証油の調達を進めるとともに、2020年までに、原産地の森林破壊ゼロの確認および原産地まで追跡可能なパーム油・パーム核油の全量調達をめざします。

紙とパルプの調達においては、2020年までに花王製品に使用する紙・パルプ、包装材料および事務用紙は、再生紙または持続可能性に配慮したもののみの購入をめざすとし、特にパルプは2020年までに原料木材産出地の追跡可能なパルプのみの購入をめざします。

#### 2. 人権への取り組み

さまざまな人権問題のリスクに対応するため、2015年に「花王人権方針」を定めました。花王の活動に加えサプライヤーへも「調達先ガイドライン」に基づく人権のための行動を要請し、人権デュー・ディリジェンスを実施しています。

このリスクを評価するため、2014年に世界的な企業倫理情報共有プラットフォームであるSedexに加盟し、サプライヤーにも加盟を要請しています。2020年までにサプライヤーのSedex加盟率70%（日本：購入金額ベース）をめざします。

また、2017年よりSedexを活用したサプライヤリスクアセスメントを進めています。

#### 3. グリーン購入

文具・事務用品など間接材の購入においては、環境省が提唱するグリーン購入を推進するため、「グリーン購入基準」を定め、環境に配慮した物品を優先的に購入しています。

機器・設備の導入においても、LED照明の導入、電力のCO<sub>2</sub>排出係数が小さい電力会社との契約など環境対応を推進しています。

※1 RSPO(Roundtable on Sustainable Palm Oil)

持続可能なパーム油の生産と利用を促進するための円卓会議  
<http://www.rspo.org/>

※2 SCCS(Supply Chain Certification System)

生物多様性保全のための厳しい条件をクリアし、RSPOに認められた農園で収穫した持続可能なパーム油を使った製品を生産・販売し、消費者に届ける目的でつくられたサプライチェーンシステム

中長期目標を達成することにより期待できること

#### 事業インパクト

NGO／NPOからの批判対応コストの低減、ブランドイメージの向上、社会的信用の向上

#### 社会的インパクト

原材料の調達を通じた社会のサステナビリティへの貢献



## 2019年の実績

### 実績

#### 1. 持続可能な原材料の調達

- ・パーム油・パーム核油の調達  
サプライヤー情報によるパーム搾油工場までのトレーサビリティの確認:完了
- ・紙・パルプの調達<sup>※1</sup>  
トレーサビリティの確認100%  
うち、紙・パルプの認証品比率<sup>※2</sup> 91%

※1 花王製品に使用する紙・パルプ(一部製品を除く)を対象とします。

※2 国内段ボールについては2019年上半期、下半期それぞれの調達量と半期ごとの認証品比率を基に算出しています。国内段ボール以外の紙・パルプの認証品比率は調達品目ごとの認証品重量の比率を集計しています。



→ 詳細はP76「具体的な取り組み:持続可能なパーム油・パーム核油の調達の取り組み」

→ 詳細はP78「具体的な取り組み:持続可能な紙・パルプの調達の取り組み」

#### 2. 人権への取り組み

- Sedexによるアセスメントを2017年から実施しています。2018年よりアセスメントの対象をグローバルに拡大し、また、新たな評価基準を定めました。
- ・Sedexによるサプライヤーのリスクアセスメントでの総合評価(2019年11月時点):S評価25%、A評価40%



→ 詳細はP78「具体的な取り組み:サプライヤーのモニタリングにSedexを活用」

#### 3. グリーン購入

2019年の「グリーン購入基準」達成率は90%でした。

#### 4. CDPによる評価



→ P89「よりすこやかな地球のために>脱炭素／2019年の実績:CDPによる評価」

### 実績に対する考察

パーム搾油工場までのトレーサビリティの確認を完了しました。

また、リスクアセスメントにより要観察と判定されたパーム搾油工場については、順次現地訪問などを進めていきます。

原産地(パーム農園)までのトレーサビリティの確認については、大手プランテーションまで完了しました。引き続き、中小規模の農園までの確認をサプライヤー、農園、NGO、専門家および第三者機関などさまざまなステークホルダーと連携して進めています。

紙・パルプの原産地までのトレーサビリティは2018年に引き続きほぼ100%となり、2020年目標を達成しています。引き続き小規模のサプライヤーに対して認証品の導入、サステナビリティの確認を働きかけます。

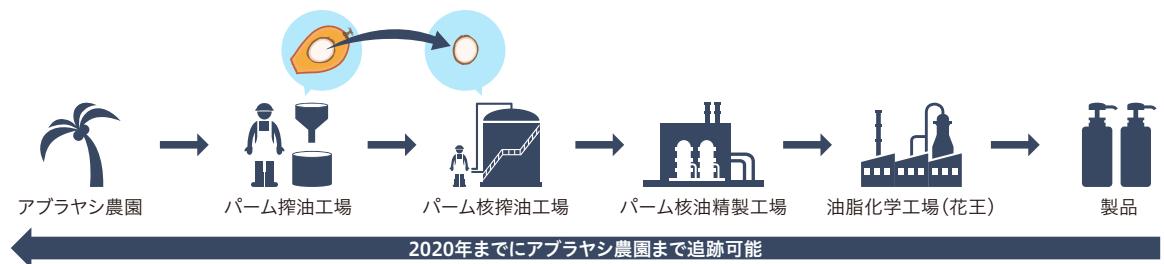


## 具体的な取り組み

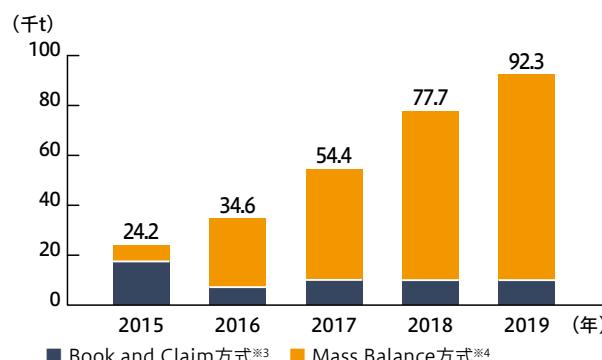
### 持続可能なパーム油・パーム核油の調達の取り組み

花王は、原材料調達ガイドラインにて、NDPE<sup>※1</sup>を支持しています。基本原料の一つであるパーム油・パーム核油の調達においても当ガイドラインに基づいた持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。また、RSPOのメンバーとして活動し、追跡可能なサプライチェーンの構築に努めています。

#### パーム油・パーム核油の調達



#### 認証油購入実績<sup>※2</sup>(花王グループ)



※1 NDPE

No Deforestation, No Peat and No Exploitation, 森林破壊ゼロ、泥炭地ゼロ、搾取ゼロ

※2 パーム油・パーム核油およびその誘導体の合計

※3 Book and Claim方式

RSPO認証のパーム油のクレジットを取引するシステム。RSPOにより認証された農園が生産、登録したパーム油の量に応じて発行された「認証クレジット」を購入することで、クレジットに応じた量の認証パーム油を購入したとみなすことができる。本方式では、農園での認証油の生産を促進することができます。

※4 Mass Balance方式

RSPO認証パーム油と非認証パーム油が混じることが許された認証システム。

#### 「持続可能なパーム油」の調達ガイドラインにおける目標と2019年実績

##### 年実績

パーム油・パーム核油の調達において、生物多様性の保全への配慮と、森林破壊ゼロへの支持を表明し、4つの目標を掲げて取り組んでいます。

目標	2019年実績
①2015年末までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、ミル(搾油工場)まで原産地追跡可能なものを購入することをめざします。	パーム搾油工場までのトレーサビリティの確認を完了
②2020年までに、農園(プランテーション)、サプライヤー(ミル、リファイナリー)および第三者機関との協働により、原産地の森林破壊ゼロを十分に確認します。私たちは、保護価値の高い(HCV <sup>※1</sup> )森林・炭素貯蔵量の多い(HCS <sup>※2</sup> )森林および泥炭湿地林の開発に加担しません。	パーム搾油工場の特定と周辺の森林破壊モニタリングを完了 リスクの高いパーム搾油工場の調査を継続
③2020年までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、農園まで原産地追跡可能なものを購入します。	2020年消費者向けに使用されるパーム油のRSPO認証油100%に向けて切り替えを推進 産業用途にもRSPO認証油の使用拡大を推進 大手プランテーションまでのトレーサビリティ確認を完了 中小農園までの確認を継続 小規模農家のトレーサビリティについてSUSTAINのパイロット調査実施
④2020年までに、花王グループ工場のRSPO SCCS認証取得をめざし、花王グループの追跡可能なサプライチェーンの構築に努めます。	RSPO SCCS認証取得数: 国内外のグループ工場およびオフィスの35サイトは2018年に取得完了

※1 HCV(High Conservation Value)

※2 HCS(High Carbon Stock)

快適な暮らしを自分らしく送るために

思いやりのある選択を社会のために

よりすこやかな地球のために

正道を歩む

# 責任ある原材料調達 308-2,414-2



パーム核油のトレーサビリティ進捗 ★2018年までの活動 ○2019年の活動

調査対象	活動内容	進捗						結果
		★	★	○				
【4次サプライヤー】小規模農家	トレーサビリティ確認手法の探索	★	★	○				★Bluenumberによる小規模農家パイロット調査 ○SUSTAINによるパイロット調査
【3次サプライヤー】パーム搾油工場(862工場)	ハイリスクミルの現地調査	★	★	★	★			★3ヶ所の現地調査実施、5ヶ所の1次サプライヤー情報による検証
	リスクマッピング ハイリスクミルの特定	★	★	★	★	★		★ハイリスクミル89ヶ所を特定
【2次サプライヤー】パーム核搾油工場(90工場)	パーム搾油工場情報の検証	★	★	★	★	★	★	★地域を代表する11工場の検証
【1次サプライヤー】パーム核油精製工場(7社)	小規模農家エンゲージメントに関する指針調査	○		○			○	○3社の指針調査実施
	パーム核油精製工場のサプライチェーン情報の検証	★	★	★	★	★		★主要5社の検証
	パーム核搾油工場、パーム搾油工場の位置情報の収集	★	★	★	★	★	★	★各工場の位置情報収集、マッピング実施
		A社	B社	C社	D社	E社	F社	G社

## 小規模パーム農家までのトレーサビリティ

パーム油のトレーサビリティと透明性の確立をめざして2018年9月にSUSTAIN<sup>\*</sup>に創設メンバーとして参画しました。2019年はプランテーションまでのトレーサビリティ確認のしくみづくりのプロジェクトおよびSUSTAINのキーテクノロジーであるブロックチェーンのワーキンググループ(Sustainability Assurance Working Group)に参画しました。小規模農園までのトレーサビリティについては、SUSTAINによりインドネシアのジャンビ州にてパイロット調査が実施されました。2020年はこれらのしくみを用いたトレーサビリティの確認をさらに進めます。

また、新たに小規模農家を支援する取り組みをステークホルダーと協働で開始する計画です。

<sup>\*</sup>SUSTAIN(Sustainability Assurance & Innovation Alliance)  
ブロックチェーン技術を活用し、パーム油関係者が協働することによりサプライチェーン情報の共有をめざすイニシアティブ。

## 小規模パーム農園との対話

2018年に引き続き2019年も経済人コー円卓会議日本委員会(CRT日本委員会)が主催するステークホルダーエンゲージメント(SHE)プログラムに参加し、インドネシアの小規模パーム農園を訪問して農園主等との対話を行ないました。また、環境や人権課題に取り組む現地NGOとの対話集会にも参加しました。



→詳細は「サステナビリティトピックス:花王 持続可能なパーム油サプライチェーンの確立に向け、小規模パーム農園との対話を実施」  
[www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics/sustainability-20191002-001/](http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics/sustainability-20191002-001/)

## 台湾でRSPOロゴ入りの衣料用洗剤アタックを発売

花王(台湾)は2019年11月にRSPO認証マーク入りの衣料用粉末洗剤アタック(9品種)を発売しました。これは台湾市場および花王グループで初のRSPO認証マー

クを表示した製品です。この認証マークはこの製品が環境、社会、経済の持続可能な成長を念頭に置いて製造されていることを識別し、証明するマークです。2020年は表示製品を拡大する予定です。



## JaSPONへ参画

2019年4月11日、小売、消費財メーカー、NGOなど18社・団体が、日本市場における持続可能なパーム油の調達と消費の加速をめざして「持続可能なパーム油のための日本ネットワーク(JaSPON)」を設立しました。花王は、理事としてJaSPONへ参画しました。



→詳細は「サステナビリティトピックス:持続可能なパーム油のための日本ネットワーク(JaSPON)」へ参画  
[www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics/sustainability-20190521-001/](http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics/sustainability-20190521-001/)



→天然油脂に代わる、より持続可能な原材料調達「将来を見据えた藻類の研究」  
[www.kao.com/jp/environment/lca/02/](http://www.kao.com/jp/environment/lca/02/)

## 持続可能な紙・パルプの調達の取り組み

### 「持続可能な紙・パルプ」の調達ガイドラインにおける目標と2019年実績

紙・パルプの調達において、生物多様性の保全への配慮と、森林破壊ゼロへの支持を表明しています。

目標	2019年実績	2020年目標に対する達成度(%)
2020年までに、花王製品に使用する紙・パルプ、包装材料および事務用紙は、再生紙、または持続可能性に配慮したもののみを購入します。古紙パルプ以外のパルプ(バージンパルプ)を使用する場合は、原料木材産出地の追跡可能なパルプのみを購入し、サプライヤーおよび第三者機関との協働により、原料木材の産出地の森林破壊ゼロを十分に確認します。	追跡可能な紙・パルプ:100% (うち、認証品91%) コピーユ用紙(グリーン購入品;日本):98% 日本8事業所にFSC認証ペーパータオルを導入 日本7事業所にFSC認証トイレットペーパーを導入	100% —

花王は、紙・パルプの調達において「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。

FSC認証紙の導入については、2013年より自社製品

の包装容器へのFSC認証紙の導入を開始し、2016年には日本で初めてFSC認証を受けた段ボールを導入しました。

2019年の紙・パルプ認証品比率※は91% (FSC認証、PEFC認証等)となりました。

日本で使用するコピー用紙は98%が持続可能に配慮した紙(グリーン購入品)に切り替わりました。

また、日本の事業所で使用するペーパータオルおよびトイレットペーパーのFSC認証品化を進めました。

※ 花王製品に使用する紙・パルプ(一部製品を除く)を対象とします。国内段ボールについては2019年上半期、下半期それぞれの調達量と半期ごとの認証品比率を基に算出しています。国内段ボール以外の紙・パルプの認証品比率は調達品目ごとの認証品重量の比率を集計しています。

## サプライヤーのモニタリングにSedexを活用

環境、安全、法令と社会規範の遵守、人権・労働問題の取り組みなどを定めた「調達先ガイドライン」の遵守状況の確認、リスクアセスメントにSedexを活用しています。サプライヤーに対してSedexへの加盟、質問への回答、データへのアクセス権の設定の要請を進めています。

2019年末時点で、グローバルで1,812サイトとのアクセス権が設定されました。日本では566サイトとのアクセス権が設定され、購入金額の約66%をカバーしています。2019年は、アクセス権が設定されたサプライヤー(2019年11月時点)に対して、Sedexアセスメントツールによるリスクアセスメントを実施しました。

また、このアセスメント結果をサプライヤーにフィードバックしました。総合評価が“A”以上となるように、改善を要する項目について見直しを求めていきます。

特に、総合評価が“C”的サプライヤーへはSAQへの回答を、総合評価が“-”のサプライヤーへは花王とのリンク状態の確認等を要請しました。

Sedexへの加盟が困難なサプライヤーに対しては、Sedexを補完する評価ツールとして、独自の調査票も活用しています。法令遵守・人権・取引慣行等の社会的責任の項目と汚染防止(大気、水等)を含めた環境方針・環境目標・各種管理等の環境保全の項目を全面改訂し、2018年より海外関係会社の直接材サプライヤーの一部、



国内機器サプライヤー、間接材サプライヤー(景品の製造・販売会社)について運用を開始し、2019年は国内直接材サプライヤーの一部にも拡大しました。

新規サプライヤーの採用にあたっても、同様のアセスメントを実施しています。

## 2019年のSedexによるサプライヤーのリスクアセスメント結果

総合評価	SAQ回答率 <sup>*1</sup>	Sedexリスク評価 <sup>*2</sup>	花王評価	割合
S	80%以上	Low	優	25%
A	80%以上	Low	良	40%
B	80%以上	Medium or High	要改善	15%
C <sup>*3</sup>	80%未満	—	要回答	10%
— <sup>*4</sup>	—	—	—	10%

\*1 Sedexのサプライヤー自己評価アンケートに対する回答率

\*2 Sedexアセスメントツールによる評価で、リスク発生の可能性を Low, Medium, Highの3段階で評価

\*3 未回答のSAQはリスクHighと評価されるため、SAQ回答率が80%未満の場合は一律"C"評価

\*4 回答結果にアクセスできないため未評価

## 花王ベンダーサミットを実施

花王では、国内外で毎年サプライヤーとの情報共有・意見交換の場として「お取引先懇談会」を開催し、年度ごとにテーマを決めてコミュニケーションを図っています。

2019年の日本のベンダーサミットにおいては、持続可能で責任ある調達の取り組みであるCDPサプライチェーンプログラム<sup>\*1</sup>への積極的な協力およびSedexへの加盟を依頼しました。また、2016年からお取引先表彰制度を開始しており、「品質」「価格」「納入」「情報提供」「経営・ステナビリティ」の観点で優秀なお取引先を表彰しました。

2019年はコンプライアンスと内部通報制度について弁護士の遠藤輝好氏に、物流をとりまく環境変化と今後の対応について株式会社日通総合研究所の大島弘明氏に講演していただきました。

### ベンダーサミット出席会社数(単位：社)

	日本開催	日本以外開催	合計
2015年	214	285	499
2016年	246	279	525
2017年	245	258	503
2018年	243	230	473
2019年	239	267	506

## CDPサプライチェーンプログラム

花王は、資源制約、生物多様性の劣化や地球温暖化などの環境問題、人権問題などを踏まえ、持続可能な開発におけるリスクを認識し、持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。これらの取り組みは、サプライチェーン全体で管理することが重要であり、「気候変動」、「水」および「森林」についてCDPサプライチェーンプログラムに参加し、主要なサプライヤーに情報開示を依頼しています。2019年の回答率は気候変動が73%、水が70%、森林が85%でした。

また、森林資源に関する項目はCDPフォレスト<sup>\*2</sup>に回答することを通じ、リスク評価を行なっています。

### \*1 CDPサプライチェーンプログラム

CDPとは、機関投資家の運営による、ロンドンに本部を置く非営利団体であり、気候変動、水、森林に関する情報開示を企業等に求める活動等を行なっている。サプライチェーンプログラムとは、メンバー企業が自らのサプライヤーに対し、気候変動・水・森林に関する情報開示をCDPプラットフォームを用いて求める取り組み。

### \*2 CDPフォレスト

CDPによる森林資源の管理・利用状況等の情報開示を企業に求める取り組み。



## サプライヤーへの満足度を調査

花王は、自身が公正・公平な調達活動を行なっているかを確認するため、「お取引先満足度調査」を3年ごとに実施しています。前回は2016年に調査を実施し、「発注先選定」「品質」「発注」「接客」「コミュニケーション」等についてお取引先より貴重なご意見をいただきました。「発注」においては、急な納期・数量の変更依頼や提案・相談に対する対応等の課題が確認されました。これらへの対応として、購買部門は「コンプライアンス通報・相談窓口」の周知、SCM部門・情報システム部門と連携した新たな需給計画プロセスの構築を進めています。

2019年は実施年にあたりましたが、購買部門の体制変更を進めたことから2020年の実施を予定しています。

## 教育と浸透の例

### 従業員研修や啓発を実施(日本)

花王では、新たに購買部門に配属された従業員に対し、「公正・公平」「遵法・倫理」「社会的責任」などの購買基本姿勢について教育しています。教育を通じて国連グローバル・コンパクトやISO26000で求められている、人権・労働などグローバルな社会的課題についての認識を持つようにしています。

2019年は、新たに購買部門に配属された従業員9人に対し購買基本姿勢について教育しました。

### 検定受験の推進(日本)

購買部門の社員一人ひとりが社会や環境との関係を認識し、行動を変革するための教育として、資格試験の受験を推進しています。

2019年は環境社会検定試験<sup>®</sup>(eco検定<sup>®</sup>※)の受験を推進し、2019年末の部門在籍者の累計合格者は79%でした。

※ eco 検定<sup>®</sup>

環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の促進をめざした検定試験。

### e ラーニングによる教育(グローバル)

持続可能で責任ある調達活動に必要な知識の習得を目的とし、購買部門全員を対象としたサステナビリティに関するe ラーニングによる教育を実施しました。2019年の受講率は100%でした。

### グローバル購買会議(グローバル)

関係会社の購買担当マネジャーが出席するグローバル調達会議を年1回開催しています。この会議において、花王の調達方針や持続可能で責任ある調達について教育と確認を行なっています。



## 外部有識者からのメッセージ

### 森林破壊・人権侵害を引き起こさない持続可能なパーム油調達をめざす花王への期待



石田 寛氏  
経済人コー円卓会議  
日本委員会  
事務局長

### 社会情勢はEsGからESGへ

近年、ESGに関する取り組みが注目度を増してきているが、多くの日本企業では、E:環境やG:ガバナンスに比べS:社会、特に人権に関する取り組みが著しく遅れている実態がESG関連投資家から指摘されている。つまり、企業の取り組みが本来のESGではなく“EsG”となっている。この小さなSを頭文字のSにするために、国連が2011年に定めたUNGPsに則った「ビジネスと人権」とりわけサプライチェーンにおける小規模農家やワーカーたちの人権侵害の有無や、企業が進出している地域社会で生活する住民の生活権利の侵害の有無の特定のために人権デュー・ディリジェンスを実施し、対処できるマネジメント体制を構築することが求められている。ここ最近では政府がこのように企業に対する規制を強化する目的で、National Action Plan や現代奴隸法を施行する

ケースが相次いで出てきている。

こうした規制強化の枠組みにおいて、グローバルでビジネスを展開していく企業は、今後正当性の担保を得るためのしくみをいち早く構築することがESG関連投資家だけではなく、ステークホルダーからも強く求められている。

#### 花王の活動で評価できること

花王では、こうした社会情勢、特に森林破壊・人権侵害などを引き起こさない持続可能なパーム油調達をめざしており、すでに以下の取り組みを推進していることを評価したい。

- ・国内では、いち早く原材料調達ガイドラインを公表したこと
- ・紙・パルプを含めた持続可能な天然原料の調達に取り組む意思を表明し、毎年経過報告をしていること
- ・パーム核油榨油工場とパーム油榨油工場のマッピングを公表したこと
- ・森林破壊が疑われている農園から供給を受けているパーム油榨油工場を監査し、公表したこと

#### 今後花王に期待していること

- ・ESG戦略として経営戦略と合致したグランドデザインを描き、今後めざす方向性を定量・定性的に示していただきたい。
- ・環境のデュー・ディリジェンスは実施しているものの、人権デュー・ディリジェンスは実施していないのでぜひ

ひ行なっていただきたい。特に花王では、小規模農家の生活状況の把握と農園で働くワーカー等の人権侵害を受けそうな人々への対話や支援をすることに最も注目している。

・UNGPsのガイドラインに基づき、潜在的なリスクを事前に予防するために社会に及ぼす負の影響が大きいものを特定し、対処するしくみを構築していただきたい。そして、それ以外の領域では、問題が起きた時に適切に対処するしくみとして、常時働いているワーカーやパーム油の小規模農家などからの懸念事項を聞くことができる苦情処理メカニズムの体制を整備してほしい。

#### 経営戦略と合致したESG活動を

今後、花王の経営戦略において、こうした上記のような潜在的なリスク課題が勃発した時にいかにしてスマートに対処できるのか、その対応力が求められている。

特に欧州のESG関連投資家は、企業が将来のビジネス成長を実現していく過程において潜在的なリスクを検知し、社会に及ぼす負の影響を最小限に止めるためのマネジメント体制をどのように構築していくことができるのかに注目している。

また、こうした取り組みを実施していくためには、定期的にESG関連投資家とのダイアログを実施しながら、どのようにして質の高い情報や関係性を保持していくことができるのかという“Quality Relationship”的概念が極めて重要である。